

溝淵悦子さん(里改田)

着物姿がよくお似合いの溝淵さん。近所の方たちの要望で今年十一月から地域の公民館で着付けを指導することになっています。



義母が着物が好きだったもので、嫁いでから冬はずっと着物で過ごしています。着付けはすべて自己流。子供に手が届かなくなつてから、着付けの学校に通い、免状を取得しました。

着物を着ると、気分的に優雅になれるし、冬は足元がすく暖かいんですよ。着物は苦しい、と思われがちですが、今は着付けも簡単で、とても楽に着られるように変わってきました。

竹村道野さん(三畠)



四月六日から始まった春の全国交通安全運動。交通事故防止のため、街頭キャンペーンで手作りのお守りをドライバーに配っていた竹村さんです。

交通事故で主人を亡くしてから、何かしたいと思っていました。それが今回知り合いに誘われて、手作りのお守りを作ることに。作るのに手間はかかりませんが、交通安全のご祈願をしてきたので、ご利益があるかもしれませんよ。交通安全のため、これからはもっと続けていきたいと思えます。

戦後の解放運動・教育・行政が
どのように行われたか ⑥

同和教育への出発②

春野村弘岡中学校で起きたS教諭による差別発言事件で、学校や教育委員会の誠意のなさに裏をにやした南部生徒会は「こうしない限り先生方はよくなつてくれない」と、二月一日学校長に次のような司盟休校宣言を出しました。

私達、春野村南部生徒一同は、この度の、S教諭の事件に対して、決議文を出しましたが、これに対して木曜日までに回答をすることでしたが、学校側では誠意ある態度を示してくれなかったため、私達は同盟休校に入ります。
昭和三年一月三十一日
南部生徒一同
校長先生へ

宣言をした生徒たちは部落のお寺に机を並べて自主的に学習を始めました。この態度は本心に立派であったし、ま

たこの闘いの中で終始冷静に教育を守ったのは部落八二名の生徒たちであろうとまでいわれています。

弘岡中学校では、校区に大きな被差別部落がありながら、同和教育をとりあげたことは一度もなく、S教諭に代表されるように、差別教育が公然と行われていました。授業の中でさえ平然と差別言動があり、生徒たちの純真な心を傷つけ、まじめな勉強の意欲を奪うような一連の教師たちの実態が明らかにされました。日常的にしかも直接に差別を受ける部落出身の生徒たちの怒りは、自発的な生徒会の決議となつたわけですが。

この同盟休校は二月二日夜、生徒たちと弘岡中学校の先生代表との話し合いがもたれ、学校長や教師たちの心からの謝罪と反省・今後の同和教育への決意表明を了解した生徒

同和教育シリーズ

私たちは、盟休を自主的に解きました。この事件は、異や村教育委員会の責任を問ひ、同和教育・同和教育のあり方に強く反省を迫りました。この結果、学校と南部地区の保護者との間にあつた壁が突き破られたばかりでなく、南部地区の人たちが差別反対のために立ち上がったその団結も大きな成果でした。

この成果は、春野村だけでなく広く県下の同和教育推進のきっかけと方向を決めることになりました。

県教委では、この年の四月、指導課に同和教育専任の指導主事を置き、学校教育・社会教育両面での指導体制が整えられ、同和教育の研修や講座が各地で開かれるようになりました。

一方、教育現場でも、高知県福祉教育協議会を発展的に解消し、一九五八(昭和三三)年高知県同和教育協議会が結成され、積極的に取り組むようになりました。